

# 一巡して始めに戻る

2018年12月1日

読者の皆さん

無限の連続体のどこかで今年が始まり、その同じ連続体のどこかで今年が終わりを迎えようとしています。しかしそうはいつでも、終わりを迎えるというのは、実のところ、どういう意味なのでしょう。代わりに数字の 8 という字の輪のように、もし、あなたの道が、終わりだろうと思える所に到達しそうな時に曲がり始めたら、一体どうなるのでしょうか。あなたは、始めた所から遠くにはいますが、一巡して戻って来てもいます。2018 年のグルマリーのメッセージ、「サツツアング」の実践を通して、あなたは実に多くのことを学んできました —— しかし、内に触れるたびに、立ち止まってつながるたびに、あなたはずっと知っていた何かに戻るのです。

私たちは今、2018 年最後の月、12 月に到達しました。世界中で、人々はクリスマス、ハヌカー、その他の冬の祝祭日の準備を始めています。この時期には、何かしら魔法のようなものがあります。私たちが何をお祝いしようと、あるいはお祝いしなかりょうと、何を信じようと信じまいと、それにはかかわらず、浸透している神秘があります。そう思うのは私たちだけでしょうか。それとも、世界のより寒冷な地域がその姿を変えた雪が渦巻くスノードームの中に、魔法があるのでしょうか。そう思うのは私たちだけでしょうか。それとも、人々がお互いにやりとりする方法の中に、人が相手を見る、本当に見る時に現れる真の優雅さのようなものを示す行動の中に、ちょっとした特別な温かさがあるのでしょうか。私たちは想像しているだけでしょうか。それとも、私たちの切望 —— おそらく愛のように、正確に言い表されていないもの —— が、この時期、より強く感じられているのでしょうか。それはまるで、空洞のどこを通っても音楽を奏でる、私たちの存在を通り抜ける西風のようにです。

何年にもわたって、グルマールは SYDA ファウンデーションのティーチャーや話し手たちに、クリスマス時期には神について話すように依頼してきました。それはとても美しい依頼であり、なぜこの季節が、この季節の意味を持つようになったかを、はっきりと明確にするものです。もしそれが、愛、光、平和として現れる神聖なものを集合的に思い出すためでないなら、何のためでしょうか——もし、それでないなら、何が12月の大気に特別な輝きを与えるのですか。もし、それが美德の表現、私たち皆が内側に見つけるサッドグナ、それが何であるかという無数の確言、根本的に私たちを一つにし、私たちを人間にするものでないなら、私たちが親切な行為の中に認識するものは、一体何なのでしょう。もし、それらはっきりとした切望の震える響きの中に私たちが聞いているものが、つながりへの呼び掛けでないなら——常に十分私たちの手の届く所にあるつながりへの呼び掛けでないなら、一体何なのでしょう。

ですから、私たちはこの年を、始めたように、終わらせます。神を思い出し、神聖さを呼び起こすことによって。グルマールのメッセージを受け取った2018年の元日以来、私たちは、私たちの心の中にある真理に触れ、そのさまざまな形を認識し、その多様な名前の音を聞く努力をしてきました。私たちの努力は、その道の一步一步を、グルマールの教えと恩恵によって導かれてきました。

私たちは、このこと——この時点までの私たちのサーダナーという背景——を心に留めて、12月という月に向かうことができます。そうです、私たちは、この時期には、神を思い出すのが特にたやすいことだと理解できます。そして、神の光を私たちの意識の中でこれまで以上に明るく輝かせるのは、私たちの意識的な努力なのです。私たちは、ここでも、あそこでも、あらゆる場所で、サツァングの瞬間を創造し続けることができます。今この瞬間にも、私たちは真理について、それがどのような感じで、どのように響くのか、そのラサ、サツァラサの味わいを学び続けることができます。

これは、つまるところ、続いていく旅なのです。それが、人が循環性の中においてさえ、進歩し続けられる理由です。それがすべて輪となっているために、無限が無限にとどまるのです。ニャーネーシュワラ・マハーラージは言っています。「大いなる自己の光は、永遠に新しい<sup>1</sup>」。私たちの努力はただ、さらなる不思議、さらなる喜び、さらなる靈感の深さを見いだそうとする私たちのために、私たちを何度も何度も同じ場所へと送り出します。今年の間もなく終わりを迎えるかもしれませんが、私たち自身の良き仲間になじみ、私たち自身の存在の真理に目覚めるためのサツァングの実践は、実のところ決して終わりはありません。

冬の祝祭日とそれに伴う立て続けの活動が近づいてくる今月、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトは、あなたがサツァングの瞬間を創り出す手助けをしていきます。2018年のグルマーイからの季節のあいさつ状を受け取ることから始まります —— そして、あなたが間違いなく望むように、今月いっぱい、この素晴らしいあいさつに何度も何度も戻ることでしょう。グルマーイからのこの贈り物の中にあるそれぞれのイメージ、それぞれの言葉、それぞれのシンボル、形そして音には、意味があります。それはグルマーイの愛を運びます。それは彼女の教えを伝えてくれます。

今月後半、ウェブサイトでは、幾つかの物語や、「ラーマ・ラーガヴァ」のチャンティングの録音、そしてシャンティ・マントラ、すなわち平和を呼び起こすマントラの説明と音声を特集します。また、毎年「ハッピーホリデー」のギャラリーと、グルマーイの2018年のメッセージを連想させる飾り付けができる、バーチャルなホリデーツリーのような、お祝い気分にあふれたインタラクティブなものも掲載されます。

私たちは、これらすべての方法で、この冬の祝祭日をサンガムとして一緒に祝います。一緒に今年の終わりを迎えます。そして、一緒に新しい年を始めます。

---

<sup>1</sup> *Jnaneshvari*, ch. 6, introductory section, v. 23

そうです —— 2019 年 1 月 1 日 (火) に、私たちは「スウィート・サプライズ (嬉しい驚き)」のサツアングで、一緒にシッダ・ヨーガのユニバーサルホールに集まります。私たちは、精神的な探究者たちが何世紀にもわたってそうしてきたように、師の英知を受け取るために集まります —— 向上をもたらし、変容を起こす英知、無知というベールを剥がし、私たちが慣れきってしまったものより、はるかに純粹で喜びにあふれた現実へと向かわせてくれる英知です。グルマーイは私たちに 2019 年のメッセージを与えます。私たちは皆、信じられないほど幸運なのです。

準備の方法を含む 2019 年の「スウィート・サプライズ」に関する詳細情報は、間もなくシッダ・ヨーガの道のウェブサイトに掲載されます。

\*\*\*

この手紙を、この素晴らしい一年にわたって続けてきた通信を、ある物語をすることで締めくくりたいと思います。

昨年の大みそか、2017 年 12 月 31 日のことです。それは、もう一つの始まりと終わりが出合う点、先端、入り口、私たちの一回り前の無限の丸い突出部の曲がり目です。

何人かのセーヴァイトと私は、バガヴァーン・ニッテャーナダ・テンプルへ夕方の礼拝に向かうグルマーイに付いて歩いていました。私たちは彼女がアヌグラハの上のロビーを歩いているところで出会ったのです。グルマーイが私たちにどこへ行くのかと尋ねると、私たちはそれぞれ次々と、高まるわくわく感と共に、「グルマーイ、どこでもあなたが向かっている所です！」と言いました。

テンプルにつながる廊下を歩いている時、空は暗く、太陽は少し前に夜の絹のとばりに包まれていました。近くの手すりに巻き付けられた電飾が点滅していました。どこか遠く、恐らくロビーから離れた部屋から、笑い声がするのが聞こえました。

私たちはグルマーイに付いてテンプルに入りました。一人ずつ、崇拝のためのささげ物 —— 香油やクムクム、ビャクダンのペースト、ターメリック、米粒、茎から外されうず高く積まれたバラの花びら —— を供えました。テンプルの中は静寂に覆われながらも、そこには活気とクッションのように柔らかい優しさがありました。私たちは、グルマーイがさまざまな香油とペーストをバデ・バーバのパードゥカーに塗り、それからバラの花びらを手にいっぱい集める姿をうっとりで見詰めました。グルマーイはパードゥカーの上に花びらを放ち、花びらは絶え間なく流れる色のリボンを形作りました。

その日の昼間、シュリー・ニーラーヤでのサツァングで、グルマーイは数人の若い男性にナーマサンキールタナの間、踊るよう頼みました。後で、グルマーイはミュージシャンの一人の男性に、彼らが踊っているのを(フルートを演奏しながら)見ている、うらやましかったのかと尋ねました。彼は、「はい、実は踊りたかったのです」と、話しました。彼は踊ることが大好きだったのです。

このミュージシャンは、その夜テンプルにいたうちの一人でした。そして彼の望み、たった何時間か前にグルの前で心から表した望みは、実現しようとしていました。グルマーイは私たちに踊るよう勧めたのです。

「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」が、ブーパーリー・ラーガでテンプル中に流れました。私たちがバデ・バーバのムールティの周りを輪になって動き始めると、そのメロディーは私たちの周囲を巡回しました。崇拝の時に使った香油の一つ、クスの香りが空気の中

に残っていて、その強く魅了する芳香は別世界のような領域に私たちを包み込みました。その領域では意味はほとんど香りによって伝達されるのだと、私は想像しました。

そして——私たちは踊りました。私たちはグルマーイと一緒に、バデ・バーバの前で、バーバの名前を歌いながら踊りました。何人かはスーフィーの修道僧の瞑想のように、長くゆっくりと円を描いて、くるくると回って踊りました。何人かは力強くしっかりとした目的あるステップを踏み、足の下は彼らの動きに力と確信を与えました。何人かは腕を高く上げ、あらゆる所に存在し、すぐにも姿を現す神を称賛し、神と対話しました。

グルマーイが私たちと一緒に踊っている時、私はグルマーイの柔らかな笑みに目を向けました。そしてその瞬間、私の中の何かがほどけました。あるいは——誰にも分かりません。それはただ、より確かで広い内側の場所に自らを案内しただけかもしれません。私たちの一人一人は自分のやり方で動いていましたが、調和をもって動いていて、チャンティングの豊かな高まりを保ち続ける何か超越的な力に同調していました。私たちはそれぞれがそれぞれのやり方で神と心を通わせ、しかもそれをシッダたちと共に行っていました。私たちがこの体験を持つことができたのは、敬愛するグルマーイのおかげでした。彼女は私たちにその英知と、その恩恵を与えたのです。

私たちは延々と踊り続け、それがどれくらいの時間だったのか分かりません。ある時点で、私たちはそれぞれ異なる道を行き、夜の闇の中に別れて行ったに違いありません。とはいうものの、私は思うのです——本当に私たちは終わりにしたのかと。あるいは、私たちのダンシングサプタは、この宇宙の遠く離れたどこかの星の上で、どこかの華麗に照らされた人間の心の隙間で、まだ行われているのでしょうか。それはまさにここで続いているのでしょうか。たった今も？ 皆さん全員と一緒に？

延々と長い間、私たちは踊ってきました。あなたと私と誰もが、常に私たちのものである真理を知ろうと求めてきました。これからもずっと、私たちは踊り続けるでしょう。サツァングで、偉大なる存在たちと共に、無限へと向かって。

心を込めて

イーシャ・サーデサイ



© 2018 SYDA Foundation®. 著作権所有。